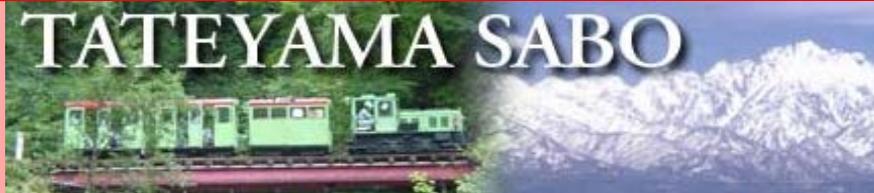


出水に備えて『洪水対応演習』を実施！！



立山砂防事務所では、出水による土砂災害の発生を想定した洪水対応演習を実施しました。
この演習は、土砂災害発生時における事務所の支部体制発令や関係機関への情報伝達、管内の巡視及び災害発生箇所への把握と応急対策・復旧の検討等を行う訓練で、土砂災害が発生した場合に緊急かつ適切な対応を行う事を目的としています。

日時：平成31年4月26日（金）9：00～17：00

場所：立山砂防事務所（3階災害対策室）

参加者：職員全員（及び一部の関係業者）

演習内容

1. 降雨状況

- ・ 9時00分 富山県中新川郡立山町芦峯寺千寿ヶ原地先の千寿ヶ原観測所において、累計雨量84mm、時間最大雨量28mmを観測。
- ・ 11時00分 千寿ヶ原観測所において、累計雨量161mm、時間最大雨量32mmを観測。以降、降雨なし。

2. 土砂災害の発生状況

- ・ 称名川右支溪奥荒谷（称名第18号床固の上流約50m）において山腹崩壊が発生。
- ・ 崩壊規模は長さ約200m、幅約50m、平均厚さ約10m。崩壊土砂量は約60,000m³と推定。
- ・ 川幅約100mの内、約90mの幅で堆積している。
- ・ 川の流れは一部確保されており、湛水は確認されない。

3. 立山砂防事務所の対応

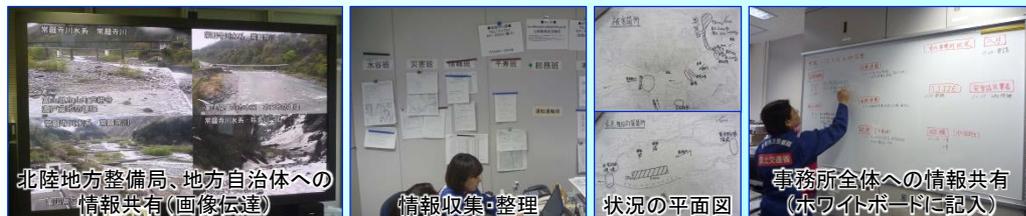
- ・ 土石流の発生により下流へ被害を与える恐れがあるため、
①関係機関への情報提供 ②土砂堆積箇所への監視 ③応急対策の検討 を実施。
- ・ 崩壊斜面については、ヘリコプターによる上空調査及び地質専門会社による地上からの調査を実施。また、監視カメラ及びワイヤーセンサーによる監視を実施。
- ・ 今後の土砂流出による被害軽減のため、下流の本宮砂防堰堤堆砂敷にて土砂捕捉用のポケット（30,000m³）の掘削を実施。※残りの30,000m³は瀬戸蔵砂防堰堤の堆砂敷で受ける。



状況報告及び報告内容の確認

土砂崩壊箇所の確認

応急対策・復旧方法の検討



北陸地方整備局、地方自治体への情報共有（画像伝達）

情報収集・整理

状況の平面図

事務所全体への情報共有（ホワイトボードに記入）



北陸地方整備局全体への情報共有（パソコンによるシステムへの入力）

局への報告（FAX及び着信確認）

【演習後の反省会での討議内容（抜粋）】

- ・ 起こりうる様々な状況を考慮し、何をしなければいけないのか自分の中で整理し演習に取り組む必要がある。
- ・ 関係機関との情報共有を演習に取り込むよう計画する。
- ・ 局への着信確認時に内容について理解不足の点があった。報告内容を正しく理解した上で行うよう努める。
- ・ 水谷出張所は館内放送が届かないので、確実な情報共有を行う。
- ・ 報告時の声が大きく、災害対策室内の全員に情報が共有されて良かった。

今回の演習での課題や反省点を討議し、今後の災害対応に反映します。



演習の状況



演習の状況